

課題・テーマ

4技能5領域におけるバランスのよい授業内容と評価の在り方
(生徒の英語使用における即興性を強化する言語活動の開発と実践)

具体的な取組と工夫

【2年次】年間目的 : 自分自身と地元や日本のことについて英語でやり取りする力を身に付ける
具体的な取組 : 修学旅行の経験について英語で表現する力を養うための授業を展開する

A. アウトプットの量を増やす

①英作文の強化

- a. 身近なテーマや自分のことを書くことで英語で書く量を増やす
今年度扱ったテーマ:「角田市を紹介する」「宮城県を紹介する」「自分の好きな音楽(動物、場所、人物など)」「修学旅行で訪れる場所について」「もう一度行ってみたい場所」等
- b. グーグル翻訳の活用 : グーグル翻訳等を用いることにより英語で書くことへの抵抗を減らす
- c. 英作文の小テストを実施し英語の定着を図る
小テストは主体的態度として評価し、間違えることへの抵抗を減らす

②音読活動を多く行う

- a. ペアで音読 : ペアで音読を行うことにより、音読活動を楽しく継続できるようにする
- b. 初見で音読 : 初見で音読することにより、間違っ読むことへの抵抗を減らす

③プレゼンテーション活動の強化

- a. ALTIによる指導及びQ&A : プレゼンテーションのやり方と英語でやり取りする力を身に付ける
- b. 修学旅行後のプレゼンテーション活動
修学旅行についてプレゼンテーションを行ったあとで、生徒間でQ&Aを行う

B. インプットの量を増やす

①リスニングによるインプットを増やす

- a. 興味関心のあるテーマの映像を見る
修学旅行先である京都や大阪に関する映像を見る
- b. 英語の音声とスクリプトの両方がある映像の活用
英語の音声の内容を必ずスクリプトで確認する

②アメリカ英語の発音に慣れる

アメリカ英語の発音の特徴を知ることにより、英語リスニングに慣れるとともにリスニングへの意欲を高める

C. 国際交流活動の活用

①ドーバー高校生徒(姉妹校)との交流

ドーバー高校生4名を受け入れ、授業等で英語のやりとりを行った。(R5、7/3~7/7)

②グリーンフィールド市民(姉妹都市)との交流

グリーンフィールド市からの訪問団10名(高校生4名、引率2名、市長など4名)と英語で交流した。(角田高校生の参加は40名に限られた: R5、6/21に実施)

成果

①英語の学習意欲が高まった

アンケートにおいて、4技能のすべてで「英語の力をつけたい」という数値が上がっている

②英語でコミュニケーションすることへの意欲が高まった

「英語でコミュニケーションできるようになりたい」との項目で数値が上がっている

アンケート質問項目	結果
【アンケートの質問文】	【 6月 → 1月 】 5段階評価の数値
①英語のリスニングの力をつけたい	4. 33 → 4. 43 (↑0. 10)
②英語のリーディングの力をつけたい	4. 17 → 4. 33 (↑0. 16)
③英語のスピーキングの力をつけたい	4. 19 → 4. 31 (↑0. 12)
④英語のライティングの力をつけたい	4. 20 → 4. 29 (↑0. 09)
⑤英語でコミュニケーションできるようになりたい	4. 04 → 4. 18 (↑0. 14)
⑥英語を音読するのは好きだ	2. 81 → 2. 76 (▲0. 05)
⑦ドーバー高校やグリーンフィールド市の高校生と英語でやり取りすることに興味がある	3. 30 → 2. 80 (▲0. 50)

課題及び改善案

課題① 音読活動に自ら取り組もうとする意欲の低下
「音読が好きだ」とのアンケート項目の数値が下がっており、音読活動を含めた効果的なインテイクの方法を考える必要がある。

課題② 国際交流活動への意欲の低下
アウトプットの実践の場である国際交流活動への意欲を高めるための授業内容を考える必要がある。

改善点① 教員(英語教員・ALT)とのやりとりを増やすことにより、やりとりの方法を身に付ける。

改善点② 生徒間のやりとりの質を高めるための方法を考える。